

都道府県別賞一等

安心料を買うということ

宮城県 仙台市立中野中学校 一学年

菅原 柚希

これは、私の家族の体験談である。私の家族は、入院・手術をしたときにお金を受け取れる保険や、親が亡くなったら子供たちにお金を残せる保険などに加入している。そのおかげで、家族が困らずに生活する事が出来た。

家族が二十代のときの話である。目がかすんだり物が二重に見えたりする事が続き、ついには立てなくなった。最初の病院から大きい病院へと紹介され、たくさん検査の結果、難病である「フィッシュー症候群」という事が分かった。四カ月の入院期間中は良くなったり悪くなったりを繰り返したが、早くに原因が分かったので悪化する前に治療を始める事が出来て良かったと思ったそうだ。発症したときはまだ二十代と若く、仕事や家庭への不安や、今後の病気への心配から落ち込んだり、悩んだり辛い日々を送ったが無事、退院する事が出来たそうだ。「生命保険があったから安心して治療を受ける事が出来て、生活の心配も少なかった事が、支えになった。」と言っていた。

そして、二十数年経った四十代のときに以前と似たような不調が現れ、その症状に心当りがあったので病院で診察を受け再発が分かった。「働き盛りでの再発は治療への不安が大きかったが、生命保険を備え続けていたのでしっかりと病気と向き合い、治療を受ける事が出来た。」と言っていた。給付金がある事で治療にかかる費用や家族の生活費、教育資金などへの不安も軽減出来たそうだ。

この話を聞いて私はもしものために備える生命保険の必要性を強く感じた。また、リスクは生命保険で備えられて、それが安心材料になる事が分かった。生命保険には様々な種類があり自分にあった生命保険を選び、ライフステージや家族の状況によって最適な備えをしていきたいと思う。まだまだ先の事だと思っていたが身近な存在で、生命保険が大きく関わっていた事を知れた。今日の自分があるのは、家族が命を繋いできたからであり、生命保険によって、守られてきたからだと思った。自分も、次の世代に繋いでいきたいと思う。